

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	大野総合事務所	階数	地上4F
建設地	相模原市南区東林間1-1-18	構造	S造
用途地域	準工業地域、22条区域	平均居住人員	120人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年2月 予定	評価の実施日	2016年11月7日
敷地面積	1,742 m <sup>2</sup>	作成者	清水建設株式会社一級建築士事務所
建築面積	961 m <sup>2</sup>	確認日	2016年11月9日
延床面積	3,716 m <sup>2</sup>	確認者	清水建設株式会社一級建築士事務所



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.3** ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.9**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.6

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.3

### LR 環境負荷低減性

**LR のスコア = 3.5**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.8

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.5

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> 住宅地側に圧迫感の少なくなるよう、開口を極力減らす、屋上機器の目隠しを設置する等、周辺環境に配慮した計画としている。	<b>その他</b> 建設工事時の安全な工事車両ルートの設定、工事騒音対策により近隣への影響を低減している。	
<b>Q1 室内環境</b> 外装は断熱サンドイッチパネル、開口部東西面には熱線吸収層ガラス+ブラインドを採用し、熱負荷低減に配慮している。また、事務室は、昼光センサーによる自動調光制御を行っている。	<b>Q2 サービス性能</b> 執務室に入ることなく共用廊下より設備メンテナンスが可能な計画となっている。高圧2回線受電としており、電源の二重化を行っている。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 外壁に防犯カメラを設置することにより、防犯性に配慮している。屋上に室外機・非常用発電機を設置することで、建物からの排熱の位置に配慮している。
<b>LR1 エネルギー</b> 事務室は手動で開閉できる窓とし、自然通風・換気が可能な計画となっている。 電力量、電流、電圧値が計測できるようにしている。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 有害物質を含まない材料を極力採用している。	<b>LR3 敷地外環境</b> 防犯灯を設置しているが、敷地境界側を避けることにより、近隣への影響に配慮している。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される